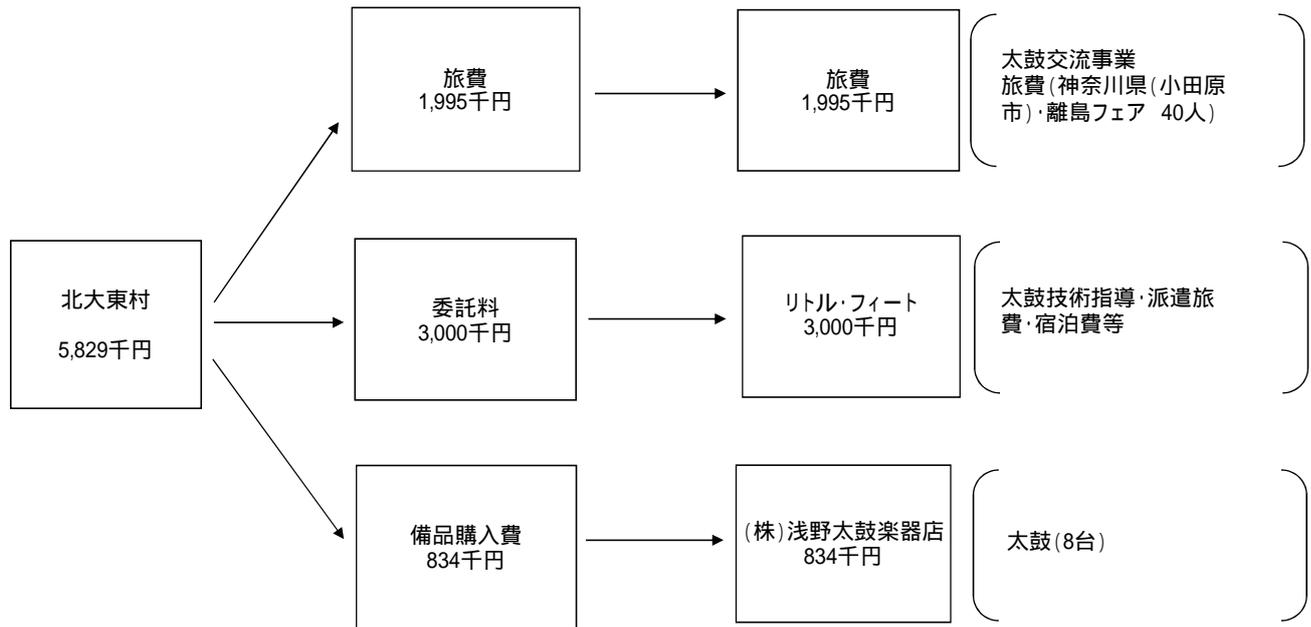


市町村名		北大東村										
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1- 地域の観光文化資源の担い手育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (12) - 工							
	担当部課名	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	離島を支える多様な人材の育成 - 1 - (1)					
事業内容		島の文化資源である「八丈太鼓」の担い手を育成すると共に、県外等での交流発表を開催し、観光誘客を促進する。										
実施方法		直接実施	委託	補助	負担	その他						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度		25年度		26年度		27年度		28年度		
		(a)当初予算額	5,000		6,000		7,000					
	(b)予算現額	1,960		5,484		7,000						
	(c)増減額(b-a)	3,040		516		0						
	(d)繰越額	-		-		-						
	A.計(b+d)	1,960		5,484		7,000						
	B.執行済額	1,960		5,481		5,829						
	うち交付金充当額	1,568		4,384		4,663						
	次年度繰越額	0		0		0						
	執行率(%) (B/A)	100.0%		99.9%		83.3%						
予算の状況の説明		・旅費(運賃・宿泊費等)の経費節減や備品の購入抑制により、不用額が発生した。										
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況									
			24年度		25年度		26年度		27年度			
	・大東太鼓担い手育成数:1人	目標	(1人)		(1人)		(1人)		()			
		実績	1人		1人		1人					
	・文化交流イベントの開催:5回	目標	(5回)		(5回)		(5回)		()			
		実績	5回		5回		5回					
達成状況説明		島内での太鼓指導を年間三回にわたって行い、子ども達の健全育成・文化継承。更にはUターンした若者への指導を実施し、担い手育成(太鼓後継者)を行った。事業実施により、村内行事(地域職員歓・送迎会、大東宮祭、敬老会、4回)・県内行事(離島フェアオープニング・開催期間2日間の演奏出演)・島外(神奈川県・小田原市)への太鼓交流事業を実施した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)					
	・文化資源の担い手育成数:1人	目標	(0人)	(1人)	(1人)	(1人)	()					
		実績		1人	1人	1人						
	・文化交流イベントの参加者数:40人	目標	(0人)	(20人)	(40人)	(40人)	()					
		実績		20人	40人	40人						
	進捗状況説明		イベント参加・交流事業の実施(神奈川県(小田原市)太鼓交流事業)・(離島フェアオープニング・演奏)により、他団体との太鼓交流を通しての繋がりや子ども達の健全育成、本島での合同練習指導において文化継承・担い手の育成がなされた。又、伝統文化・島の魅力を発信した事によって、沖縄本島内・外からの誘客促進と観光振興に大きく貢献した。									

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	今年度事業実施(県外交流事業・離島フェア参加)に向け派遣選定基準・人数制限等が問題点・課題となった。(太鼓会員が約40人) 会員全員参加となる派遣費や引率人数制限等。今後の練習状況も含めて、遠征派遣やイベント参加の選抜基準を設け、取り組んでいくことを留意した。活動実績に関しては、交流実施回数と、遠征人数の目標を達成できた。	会員全員参加を選定基準に置き、練習段階からの基本取り組み・環境等を改善していく。県外交流事業・イベント派遣事業を実施し、活動範囲を広げていき、島の魅力を発信する。(誘客促進)
	今後の取り組み方針	
今後も他団体・地域との太鼓を通しての文化交流事業や県内・村内イベント等に積極的に参加・実施し、文化継承と島の魅力・情報発信に努め、観光振興・誘客へ繋げていく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,829	5,829	4,663	1,166	



資金の流れ、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 予算規模については、不用額 1,171千円であるが、適正な規模であったと考えている。 委託費については、太鼓発足当時から指導者である為、随意契約により契約を行っており、妥当であると考えます。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 観光アクセス道路美化緑化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (12) - ア		
	担当部課名	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	観光リゾート産業の振興	
				沖縄振興基本方針該当箇所	- 1 - (1)		
事業内容		島の観光に重要なアクセス道路や周回道路等の修景及び美化の重点的な実施を行い、魅力的な観光地づくりを促進する。					
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()					
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	27,500	2,500	4,000		
		(b)予算現額	24,045	3,016	4,000		
		(c)増減額(b-a)	3,455	516	0		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		24,045	3,016	4,000		
	B.執行済額		24,045	2,975	3,913		
	うち交付金充当額		19,236	2,380	3,130		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	98.6%	97.8%		
予算の状況の説明		事業計画のとおり、アクセス道路や周回道路等の修景及び美化を実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	アクセス道路及び周辺道路の美化実施:清掃員2名	目標	(10箇所)	(10箇所)	(美化実施:清掃員2名)	()	
		実績	10箇所	10箇所	美化実施:清掃員2名		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	清掃員6名を雇用し、アクセス道路や周回道路の美化修景(10箇所:村内主要道路・村内神社・上陸公園・沖縄県最東端の碑等)を重点的に修景及び美化を実施し、観光客等の受入体制が整備できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	アクセス道路及び周辺道路の美化実施:2,500m	目標	(0箇所)	(10箇所)	(10箇所)	(美化実施:2,500m)	()
		実績		10箇所	10箇所	美化実施:2,500m	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化を重点的に実施(村内主要道路・村内神社・上陸公園・沖縄県最東端の碑等の2,500m)する事により、観光客等の受入体制の整備・誘客促進・観光振興が図られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	アクセス道路や周回道路の修景及び美化を重点的に実施してきた中で、歩行者通路区画線の延長やガードレール・観光地案内板等の設置要望が課題となった。	道路区画整備の個所延長や観光地までの案内標識設置等についても未設置箇所があり、わかりやすい標識設置の要望がある為、次年度実施予定。区画周辺・観光地周辺の美化及び修景を継続していく。(数年後には、新たな区画整備箇所を計画・検討)
今後の取り組み方針		
観光アクセスに重要な道路や周回道路の修景及び美化については、平成27年度も引き続き実施し、魅力的な観光地づくりに努める。観光案内板・道標設置は平成27年度に実施し、区画線延長・未整備箇所については後年度の整備に向け取り組んでいく。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,913	3,913	3,130	783	


```

graph LR
    A[北大東村  
3,913千円] --> B[賃金  
3,913千円]
    B --> C[美化緑化清掃員  
3,913千円]
    C --- D[清掃員 6人]
  
```

資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 予算規模については、適正な規模であったと考えている。 嘱託職員については、適正に選定しており、妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2	オンライン双方向授業支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - イ	
	担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 9	
事業内容	地理的条件によって、遠隔地である離島において教育環境格差は、大きな課題である。そこで、都市部と同様の学びを受ける事が可能なオンライン双方向授業を行う。						
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他	
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	11,000	12,000			
		(b)予算現額	11,000	12,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	11,000	12,000			
	B.執行済額		9,342	10,338			
	うち交付金充当額		7,473	8,270			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		84.9%	86.2%			
予算の状況の説明		オンライン授業委託は事業計画どおり実施したが、備品購入費(授業教材)の不用額が発生した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	オンライン双方向授業講師	目標	(5人)	(4人)	()	()	
		実績	5人	4人			
	オンライン双方向授業受講生徒	目標	(20人)	(35人)	()	()	
		実績	20人	35人			
達成状況説明	オンライン双方向授業にて現役東大生講師の指導の下、児童・生徒の学力向上が図られたほか、学習方法・姿勢が身に付き教育環境格差の解消に繋がった。又、高校受験も全員合格という実績を得られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(28年度)
	学力向上率を7～10ポイント伸ばし、全国平均レベルまで設定	目標	()	(7～10ポイント)	(7～10ポイント)	()	()
		実績		4～5ポイント	4～5ポイント		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	正答率が低く、学力向上率の目標は達成できなかったが、オンライン双方向授業の実施により、現役東大生の指導を通して教育環境格差の解消が図られ、児童・生徒の学習に対する習慣や姿勢が身に付き、沖縄県、全国平均との学力差が縮まった。又、高校受験も全員合格の実績を得られた。 学力向上率 … 全国学力状況調査における沖縄県平均、全国平均正答率との差(小学生、中学生の平均値) 沖縄県平均との差 目標 7ポイント縮小(小7.0ポイント、中7.0ポイント) 実績 4ポイント縮小(小3.2ポイント、中4.8ポイント) 全国平均との差 目標 10ポイント縮小(小10.0ポイント、中10.0ポイント) 実績 5ポイント縮小(小4.1ポイント、中6.7ポイント)					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>事業を実施していく中で、授業の出欠にバラつきのある受講生がいる事など、問題点・課題があった。</p> <p>家庭学習を優先に終えた生徒を授業に出席させるとしており、家庭学習が終わらなかつたり、部活や学校行事により欠席する生徒がいる。</p> <p>受講料が無料の為、授業出席率・継続意識が低い。</p> <p>受講生の授業の理解度に差があるため、個々の受講生の理解度に応じたサポートが必要である。</p>	<p>受講生の出席継続意識を向上させる取組を行う。(授業料免除の経緯説明)</p> <p>教育環境格差の解消だけでなく、普段の授業に加え受験対策の取り組みや学習方法の指導を実施する。(講師の招聘・現地対面授業)</p> <p>学習の遅れがちな生徒に対するサポート体制を構築する。(学習支援員の配置)</p>

今後の取り組み方針

・欠席する際に必ず連絡をさせるなど受講意識の向上を図る。

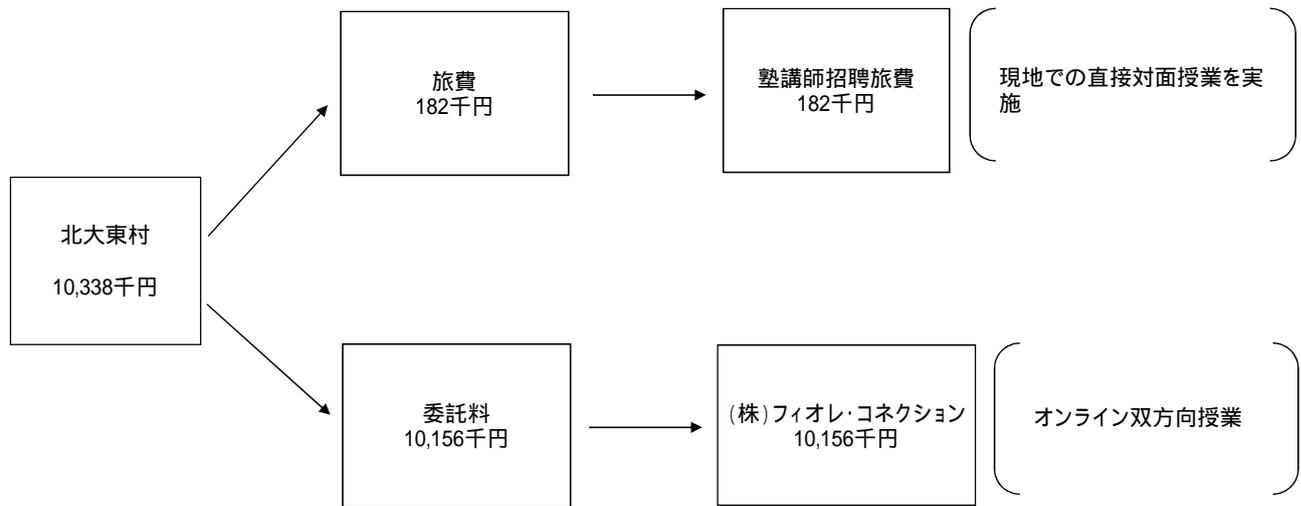
・学習が遅れがちな生徒については、授業中に村営塾の講師でフォローしていけるような体制を作るほか、理解度に応じて班分けし、補習事業を行うなどにより、学ぶ楽しさと授業態度の改善を図る。

・平成26年度は、早期に事業を開始し、学力向上率のアップを図ったので平成27年度も継続を図る。

・受験生(中学生)の早期(中学2年生の2学期頃から志望校の選択・レベルに向けて)の受験対策への取り組み・意識改革(2カ月毎の月例テスト)を図り、全体のレベルの底上げを行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,338	10,338	8,270	2,068	



資金の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模については、不用額 1,662千円があるが、適正な予算規模であったと考えている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	委託費については、オンライン授業を継続的に行う観点から1社のみにより随意契約により契約を行っており、妥当であると考えます。
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名 北大東村

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-	離島の定住促進に向けた子育て基盤構築事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - イ
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
				- 9

事業内容 待機児童を解消する為、2歳児を含む未就学園児に対する幼稚園の預かり保育を強化する。又、特別支援教育を充実させる為、学習支援員を配置する。

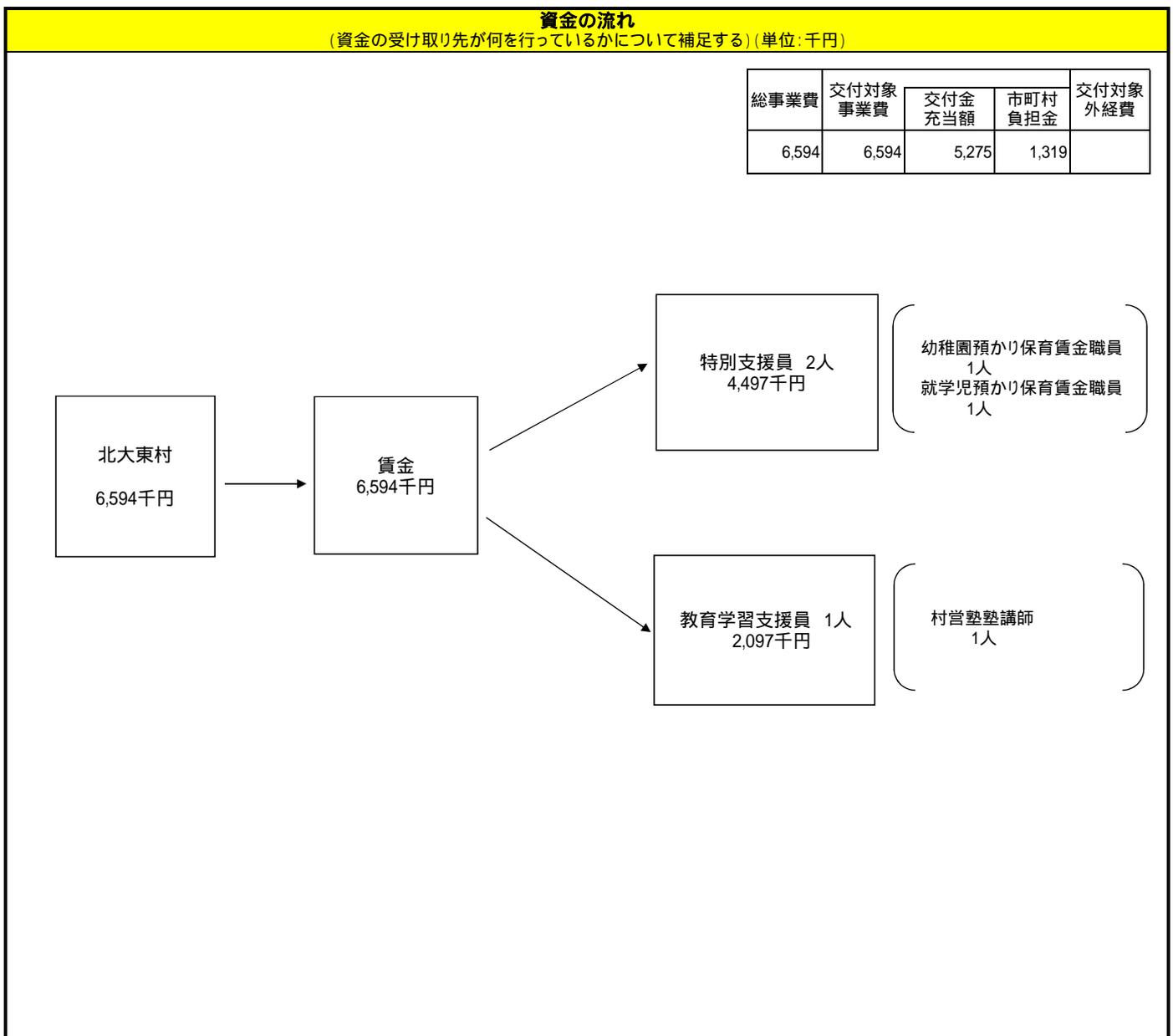
実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況					
	(a)当初予算額	7,000	7,500	7,500		
	(b)予算現額	4,592	6,998	7,000		
	(c)増減額(b-a)	2,408	502	500		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	4,592	6,998	7,000		
	B.執行済額	4,592	6,897	6,594		
	うち交付金充当額	3,673	5,517	5,275		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	98.6%	94.2%		
予算の状況の説明		嘱託職員賃金の勤務実績が事業計画を下回った為、賃金を流用により減額した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
・幼稚園児の預かり保育の実施のための支援員の配置:2人	目標	(2人)	(2人)	(2人)	()
	実績	2人	2人	2人	
・学習支援員の配置:1人	目標	(1人)	(1人)	(1人)	()
	実績	1人	1人	1人	
達成状況説明	平成26年度も継続して特別支援員(2人)を配置した事により、待機児童の解消目的と2歳児を含む未就学園児に対し、幼稚園の預かり保育が強化された。又、村運営の学習塾へ教育学習支援員(1人)を配置し、児童・生徒を対象に学習支援を実施し、教育環境格差の解消と高校受験全員合格という実績も得られた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
		目標	(0人)	(10人)	(10人)	(10人)
	実績		10人	10人	10人	
	目標	()	()	(50人)	(50人)	()
実績			50人	50人		
進捗状況説明	預かり保育事業実施により、待機児童の軽減と、幼稚園入園への障害等(10人:親離れ・人見知り・学習発達)を解消した。支援員の配置事業実施においては、学習塾受講者(50人)が全校児童・生徒約6割が学習支援を受け、高校受験も全員合格という実績が得られた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	特別支援事業を実施する上で、預かり対象年齢(現在満2歳児以降)を下げて欲しいとの要望があった。今後の課題として、配置人員確保や時間・人数制限等を検討。又、対象保護者からは、就労機会の創出に大きく影響している評価も得られた。学習支援事業では、実績の評価や質・内容・取組方法等が検証された。	現在、満2歳からの対象未就学児を預かり保育へ入所しているが、将来的には、対象年齢を下げ、配置人員の確保をする事により、入所幼児の増数と保護者の就労時間・就労機会の促進につなげられるよう改善する余地がある。
	今後の取り組み方針	
特別支援事業の預かり対象年齢の引下げや人員確保の課題を検討し、預ける保護者が安心して就労できる環境を提供していくよう改善していく方針。学習支援事業については、平成27年度実施事業(オンライン双方向授業支援モデル事業)を村営塾と絡ませて、学力向上率を図る。		



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 予算規模については、適正な予算規模であったと考えている。 嘱託職員については、適正に選定しており、妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北大東村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-		離島の児童の交流促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - イ	
	担当部課名	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 9
事業内容	離島の不利益を克服し、児童生徒の島外・県外交流を促進する為、スポーツや交流学习における渡航費の一部を負担する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,000	2,500		
		(b)予算現額	1,584	2,602	2,614		
		(c)増減額(b-a)	1,416	398	114		
		(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)		1,584	2,602	2,614		
	B.執行済額		1,584	2,435	2,403		
	うち交付金充当額		1,267	1,948	1,922		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.6%	91.9%		
予算の状況の説明		・スポーツや他校との交流学习派遣費に不足が生じた為、負担金を流用により増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・スポーツや交流学习の為に派遣する児童生徒数(延べ数):渡航助成の実施	目標	(20人)	(30人)	(助成の実施)	()	
		実績	20人	30人	30人		
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	学習・文化交流(那覇市・小禄中学校、那覇地区中学校文化祭)やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会)による本島への移動費助成を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	・スポーツや交流学习の為に派遣する児童生徒数(延べ数):30人	目標	(0人)	(20人)	(30人)	(30人)	()
		実績		20人	30人	30人	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	交流促進事業の実施により、他校(那覇市・小禄中学校、那覇地区中学校文化祭)との文化交流が図られた事やスポーツ大会派遣(陸上競技・バドミントン競技大会)においては、地区大会上位実績・県大会派遣への意欲や技術・精神面での向上に繋がる成果が得られた。					

市町村名 北大東村

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-	離島特別医療質確保推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - イ
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
				- 9

事業内容 離島の不利益を克服し、妊婦等の健康を守る為、妊婦検診等、島内で対応できない医療サービスを受ける際の渡航費の一部を助成する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	4,000	500	1,000		
	(b)予算現額	179	1,400	1,904		
	(c)増減額(b-a)	3,821	900	904		
	(d)繰越額	-	-	-		
	A.計(b+d)	179	1,400	1,904		
	B.執行済額	179	1,046	1,831		
	うち交付金充当額	143	836	1,465		
	次年度繰越額	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	74.7%	96.2%		
予算の状況の説明	・補助件数が当初計画していた件数を上回った為、補助金を事業間流用補正にて増額した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
・妊婦検診助成の実施	目標	(5回/1人)	(5回/1人)	(助成の実施)	()
	実績	5回/1人	3.4回/1人	4回/1人	
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	島内で受診対応出来ない、妊婦検診(15人/60回)医療サービスを受ける際の沖縄本島への渡航移動費助成を行った。事業制度の周知が図られ助成妊婦対象者は増加したが、検診渡航回数が少なく活動目標の数値を下回った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
		目標	(0回)	(5回/1人)	(5回/1人)	(30回(5回/1人))
	実績		5回/1人	3.4回/1人	60回(4回/1人)	
	目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	15人の方が、助成申請・支援を受けた。、前年度からの継続した取組により、事業の認知・周知性が高まり事業制度が活用された。事業制度の周知が図られ助成妊婦対象者は増加したが、検診渡航回数が少なく成果目標の数値を下回った。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	妊婦への助成事業を推進していく中で、税滞納者の有無確認や渡航助成金を前払いの要望等があげられた。今後も事業継続・必要性もあるので、確認の徹底や申請者の手続きによる負担軽減に努める。又、渡航助成費以外に関連・付属した助成(出産祝い金)も捻出可能か?との課題も挙がり、年度内補正計上にて対象者へ助成。(交付金対象外の為、村単費で取り組んだ。)	妊婦受診の助成制度の活用・促進を促していく為、税・公共料金等の滞納該当者の有無確認と納付強化に努め、渡航助成費の概算(前払い)によって立替経費負担軽減への取り組みと不利益条件格差の解消・定住化を図る。(将来的には医療機器・施設の基盤整備強化を検討)
今後の取り組み方針		
平成27年度からは特定重病患者の島外医療サービスの渡航費助成と合わせての実施継続・制度の周知を徹底しながら、助成費概算払いによる受益者への立替経費負担軽減を図る。制度活用していく中で、村税・公共料金等の納付強化と滞納者皆無に取り組み少子化問題解消・高齢者定住化へ繋げていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	1,831	1,831	1,465	366	
<pre> graph LR A[北大東村 1,831千円] --> B[補助金 1,831千円] B --> C[妊婦検診受診者 1,831千円] C --- D[妊婦渡航助成 15人・60件] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	受診証明書・搭乗確認書等にて選定しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	予算規模については、適正な予算規模であったと考えている。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	受益者との負担関係については、渡航費助成以外の経費において受益者負担を行っており、妥当であると考えます。

市町村名		北大東村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 北大東村複合型福祉施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (11) - イ		
	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 - 9	
事業内容	本村は、地理的条件や小規模人口の自治体という社会的条件等が相まって、福祉サービスの基盤整備が立ち遅れ、高齢者の福祉サービス等を村外に依存せざるを得ず、島を離れる状況が増加している。そこで、住み慣れた地域の中で安心して暮らしていく事が出来るように、複合型福祉施設を整備する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			25年度	25年度(繰越)	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	320,141	-	100,000		
		(b)予算現額	320,141	-	98,932		
		(c)増減額(b-a)	0	-	1,068		
		(d)繰越額	-	304,391	-		
	A.計(b+d)		320,141	304,391	98,932		
	B.執行済額		15,750	301,460	79,380		
	うち交付金充当額		12,600	241,168	63,504		
	次年度繰越額		304,391	0	0		
	執行率(%) (B/A)		4.9%	99.0%	80.2%		
予算の状況の説明		事業計画どおり複合型福祉施設の整備事業を実施した。入札残による不用額発生。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	福祉施設設計監理・工事の実施	目標	(監理・工事の実施)	()	()	()	
		実績	監理・工事の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	住み慣れた地域の中で、自立生活を営み、日常生活上の安全・健康・安心して暮らしていけるよう福祉基盤整備に向け、複合型福祉施設(夫婦対応方:2戸・単身対応方:6戸・食堂・浴場・化粧室)整備を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	福祉施設設計監理・工事の完了	目標	(0回)	(監理・工事の実施)	()	()	()
		実績		監理・工事の実施			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	住み慣れた地域の中で、自立生活を営み、日常生活上の安全・健康・安心して暮らしていけるよう福祉基盤整備に向け、複合型福祉施設整備を行った。平成27年度からの稼働により、短期・長期入居者への福祉(健康増進)・介護(ミニデイ)サービスや高齢者自立生活支援、預かり保育等を地域の中での福祉活動・人材育成(2人雇用)を支え、地域包括ケアシステムを活用した福祉力向上を図っている。					

市町村名		北大東村					
平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6- 北大東村景観形成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 3 - (12) - ア		
	担当部課名	企画財政課		事業実施(予定)年度	平成26～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興
事業内容		北大東村特有の地域性にあった景観づくりに向けて、海岸道路沿いの周辺環境に配慮した景観整備を行う。					- 1 - (1)
	実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()					
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）				26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	14,250				
		(b)予算現額	14,250				
		(c)増減額(b-a)	0				
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	14,250				
	B.執行済額		8,964				
	うち交付金充当額		7,171				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		62.9%				
予算の状況の説明		実施設計のみ執行の為、工事請負費分の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 測量・設計の実施:全長 9,000m	目標	(9,000m)	()	()	()	
		実績	9,000m				
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 監理・工事の実施:50m	目標	(50m)	()	()	()	
		実績	50m				
達成状況説明	マリンレジャー施設や観光ガイド施設等の観光基盤整備を進める中、景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを地域性にあった植樹・環境整備によって、観光誘致へ繋げるよう景観形成の実施設計を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 測量・設計の完了:全長 9,000m	目標	(0回)	(9,000m)	()	()	()
		実績		9,000m			
	・村一周海岸道路の植樹環境整備 雑木伐採等の完了:50m	目標	(0回)	(50m)	()	()	()
		実績		50m			
	進捗状況説明	漁港完成に伴い、新規事業・雇用の創出や他方からの漁業利用者等が期待できる。又、マリンレジャー施設や観光ガイド施設等の観光基盤整備が進んでいる。そこで、景観性が乏しい村一周道路の海岸沿いを地域性にあった植樹・環境整備によって観光誘致へ向け、景観形成の実施設計・雑木伐採等の実施(50m)を行った。次年度から景観形成整備を実施する。					

市町村名	北大東村
------	------

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-	北大東小中学校渡り廊下建設事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - イ
担当部課名	企画財政課	事業実施(予定)年度	平成26年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
				- 9

事業内容
雨天時の移動の利便性向上、安全の確保など教育環境の充実のため、小中学校校舎・体育館・図書館等への渡り廊下を整備する。

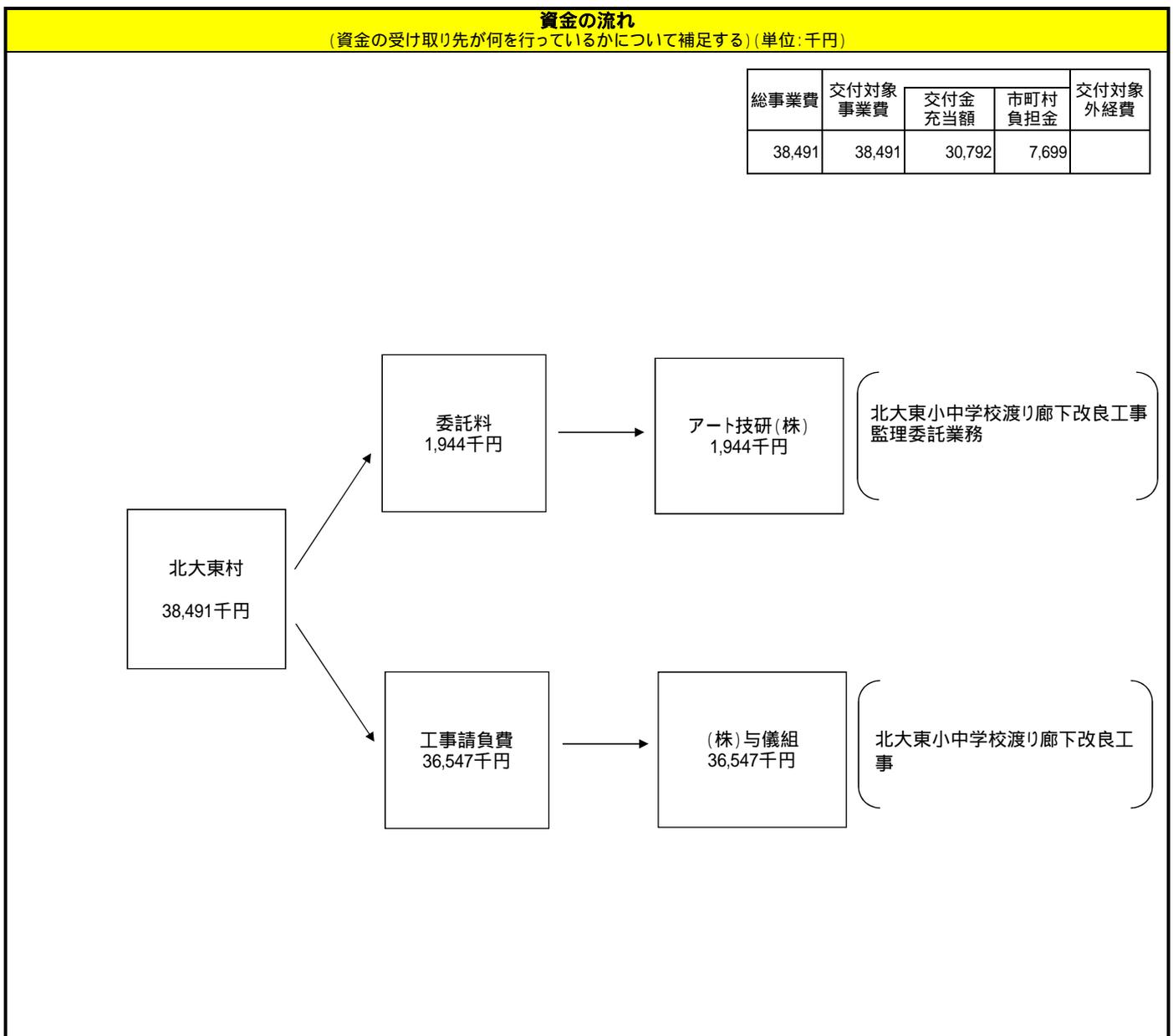
実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	38,000				
	(b)予算現額	38,550				
	(c)増減額(b-a)	550				
	(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	38,550				
	B.執行済額	38,491				
	うち交付金充当額	30,792				
	次年度繰越額	0				
	執行率(%) (B/A)	99.8%				
予算の状況の説明	事業計画どおり小中学校渡り廊下の整備事業を実施した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
北大東小中学校渡り廊下工事の実施	目標	(工事の実施)	()	()	()
	実績	工事の実施			
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	小学校棟から中学校棟にかけて渡り廊下が開通していない為、雨天時は移動に支障をきたしていた。小中一貫教育の本校では、職員・児童・生徒の移動が頻繁に行われており、利便性の充実した渡り廊下の整備に向け、施設整備を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)	基準値(23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		目標	(0回)	(教育環境の向上)	()	()
	実績		教育環境の向上			
	目標	()	()	()	()	()
進捗状況説明	小学校棟から中学校棟にかけて渡り廊下が開通していない為、雨天時は移動に支障をきたしていた。小中一貫教育の本校では、職員・児童・生徒の移動が頻繁に行われており、渡り廊下の整備により、安全の確保や移動の利便性・教育環境の充実が図られた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	小中学校渡り廊下を整備していく中で、設置個所や移動の利便性・安全性、バリアフリー対応可能に設置の要望があった。	バリアフリー対応要望や電気配線露出等の指摘・改善策等があり、設置委員・関係者にて安全の確保・移動の利便性(各移動校舎・施設等)を協議・検討し、充実した教育環境の構築が図られた。
	今後の取り組み方針	
雨天時移動の安全性確保と校舎、体育館、図書館等への移動時の利便性向上、教育環境が構築された。今後の建設・設置計画の施設と整合(リンク)できるよう取り組む。		



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 予算規模については、適正な予算規模であったと考えている。 委託業者・工事請負業者は指名入札方式により適正に選定しており、妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	